

米国カリフォルニア州 生食用ブドウとサクランボの見通し

The Packer 2023年4月24日

カリフォルニア州の生食用ブドウ、イチゴ、サクランボ産業はすべて、雨、雪及び異常に寒い冬を特徴とする厳しい生育期間を経て、有望な年に向かっていているようである。(以下、イチゴについては省略)

生食用ブドウ

フレズノ郡に本拠を置くカリフォルニア州生食用ブドウ委員会のキャスリーン・ネイブ会長は、カリフォルニア州の生食用ブドウの出荷シーズンはコアアチュラバレー地域から始まり、そこでの収穫の開始は5月中旬から下旬になるだろうと述べた。

サンホアキンバレー地域での収穫は6月下旬または7月上旬に開始されると見られる。執筆時点では最初の作柄予測は入手できなかったが、早い時期の期待としては、2023年の収穫量は昨シーズンの9,510万箱(19ポンド(約8.6kg)/箱)に匹敵するか、それよりわずかに多くなると見られている。

品種別では、2022年にはオータムキング、スカーレットロイヤル、シージーン20(商標名アリソン)、フレーム(シードレス)、シージーン21(商標名アイボリー)が総出荷量の47%を占めた。昨シーズンの輸出量は出荷量の30%を占め、上位3つの輸出市場はカナダ、メキシコ、台湾であった。

ネイブ氏は、「国内市場と輸出市場の両方でカリフォルニア州産の生食用ブドウの需要を増やすために、2023年には積極的な販売キャンペーンが計画されている。それによって、小売業者がシーズンを通して大きな量を扱うように、また消費者がカリフォルニア州産のブドウを選択するように動機付ける」と述べた。

サクランボ

生産出荷業者らは、カリフォルニア州のサクランボの収穫は平年より7~10日遅れ、4月下旬または5月上旬に開始されるだろうと言う。

執筆時点で2023年の公式な作柄予測は発表されていないが、生産者らは今年の出荷量は、主に異常な暖冬のために前年の約1千万箱から減少した昨年の520万箱(18ポンド(約8.2kg)/箱)よりわずかに多いと予想している。

カリフォルニア州ディヌーバにあるキングフレッシュ青果会社のオーナーであるキース・ウィルソン氏は、「今年は低温時間が十分にあった」と言う。一方、一部の生産者らは雨と寒さのために減収すると報告した。

ウィルソン氏は、「弊社がここで栽培している品種については、着果がどうなるか、天候がどうなるかわからない」としつつ、5月20日までに販売促進できる量の収穫量となると見ており、「間違いなく販促が必要になる」と述べた。

カリフォルニア州ハンフォードにあるプレーバーツリーフルーツ社のモーリス・キャメロン社長は、有機栽培のサクランボも量が多くなるだろうと述べた。同社長がカリフォルニア州でおそらく最大の有機サクランボ生産者であろうと言う同社は今年、有機栽培の面積を「大幅に」増やした。

カリフォルニア州は毎年サクランボを最初に出荷する州であり、出荷は6月の第3週頃まで続く。

執筆者: トム・バーフィールド